

平成28年度 自己評価及び学校関係者評価書

25512
札幌市立平岡中央小学校

1. 本年度の重点目標

学び合い育ち合う学校～安心して学び合える学校づくり～

2. 本年度の経営方針と重点

- (1)学ぶ力の育成
- (2)豊かな心の育成
- (3)健やかな体の育成
- (4)学び合いを協働する教職員集団
- (5)保護者や地域との連携
- (6)あったかい関わり

3. 評価結果

達成状況 (A～十分に成果がある B～成果がある C～成果が不十分 D～改善が必要)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力の育成	一人一人の学びを大切に授業の工夫・改善に取り組んでいる。	A	・保護者アンケートにおいて、昨年度、比較的评价の低かった「落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組んでいたか。」の項目で肯定的な回答が93%(昨年度89%)と改善が見られた。一方、児童アンケートでは、「静かに友達の話の話を聞いたりすることができましたか。」の項目で「はい」と回答した児童が60パーセントにとどまった。次年度も全校で「聴き合い」を基盤にした授業を大切に、「聴くことの大切さ」への意識を高めていきたい。 ・札幌市全体の共通指標(子どもの自己評価)において、「授業中、自分の意見を進んで発言している。」の項目に、肯定的な回答をした児童が札幌市の平均を18%上回った。次年度も「ジャンプの課題の設定」に全校で取り組み、「学ぶ意欲」「思考力・判断力・表現力」を育てていきたい。 ・5年生の総合的な学習の時間に「幼稚園・保育園との交流活動」、6年生に「2年生のかけ算先生」などの新たな取組を位置付けた。今年度の実践を整理し、より本校の独自性を高めていきたい。	A	A
	言語活動の充実、問題解決的な学習を通して、「思考力・判断力・表現力」の育成に努めている。	A			
	聴き合いを基盤にした授業づくりを進めている。	A			
	子どもたちが、夢中で対話したくなるような「ジャンプの課題」を設定することを心掛けている。	B			
	総合的な学習の時間では、育てたい力を明確にして本校独自のカリキュラムがつくれ、実践が進められている。	A			
	学年に応じた読書活動の取組を進め、落ち着いた生活の始まりが定着してきている。	A			
	ITの活用などにより、学習内容の定着や習熟を図る指導を展開している。	A			
	学校関係者による意見	・「自分の意見を進んで発言する子」がさらに増えるように指導してほしい。 ・最後まで話を聞くことの大切さを指導し続けてほしい。			
豊かな心の育成・健やかな体の育成	「わたしたちの道徳」を活用し、計画的に道徳の授業を行っている。	B	・平成30年度から「特別な教科道徳」として位置付けられることに向け、年間指導計画の見直しと評価の在り方を検討していく。 ・今年度から5・6年生の「総合的な学習の時間」において、「異学年交流」を教育課程に位置付け、ふれあい活動の準備等に必要活動時間を保障した。児童アンケートでは、「ふれあい活動は楽しいですか」の項目で「はい」と回答した6年生児童が84%(昨年度67%)と改善が見られた。より子どもの主体の取組になるよう今年度の取組を引き継いでいく。 ・「挨拶」は、本校の指導の重点の一つとしているが、児童アンケートでは、「あいさつは自分からできましたか。」の項目で「はい」と回答した児童は75%にとどまっている。今年度の途中から取り組んだ「あいさつ運動」をさらに発展させ、児童主体の活動とすることで、意識を高めていきたい。 ・昨年度、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において「持久力」「敏捷性」に課題が見られたため、今年度から体育の準備運動で、約3分間のリズム縄跳びに取り組むこととした。また、体育委員会が「なわとび集会」を開催するなど、縄跳び運動に全校で取り組んだ。次年度も引き続き縄跳び運動を推進していく。	A	A
	児童がめあてをもって行事に取り組み、自己肯定感・自己有用感を高められるよう工夫・改善を図って実践している。	A			
	児童集会、委員会、クラブ活動が、児童にとって、自主的で達成感のもてるものになるように展開してきている。	A			
	「ふれあい活動」では、子ども同士が互いを認め合い、豊かな関わり合いが生まれるよう教師の支援を行っている。	A			
	落ち着いた生活の基盤づくりのため、挨拶や廊下歩行、時間厳守などの指導が、具体的な取組を通して、継続的に行われている。	B			
	子どもが安心して生活できるように、学年としてのめあてをもち、集団を育てる指導の充実を図っている。	A			
	特別支援を必要とする児童に対して、関係機関やSCなどとの連携を図りながら、学校、学年としての支援体制が整えられている。	A			
	体力向上を図るために継続した取り組みを行っている。	A			
学校関係者による意見	・登下校中の児童の挨拶がだんだん良くなってきていると感じる。 ・教師や保護者などの大人が挨拶のお手本となるのが大切である。				
学び教合職い昌本	職場は、教職員の同僚性を大切に学びあい支え合いがあり、温かい雰囲気である。	A	・全学級が公開授業を実施している。学年を超えて授業内容について話し合い、授業を見合った後は、授業についての話し合いの場をもつことで、互いの指導力を高め合おうという雰囲気が定着している。次年度も全学級が公開授業を行う予定である。	A	A
	学年研修や各部会では、子どもの(学びの)姿を大切に話し合いが進められている。	A			

協働する 集団	校務分掌によって各部の業務が効率化に進められている。	A		
	学校関係者による意見	・教職員の関係が良好であることが子どもたちが良好な関係を気付くことにつながると思う。		
保護者や地域との連携	保護者の学習ボランティアやゲストティーチャーの活用に努めている。	B	A	A
	授業参観・懇談内容を工夫、充実させ保護者の理解と協力を得ている。	B		
	児童の生活指導や問題行動に対して、保護者と連携を図りながら指導にあたっている。	A		
	お便りやHPなどを通して、保護者への情報提供が適切に行われている。	A		
	児童・保護者・地域、また校種間での交流の機会などを通じ、教職員以外の声を聞く場を設けている。	B		
	学校関係者による意見	・子どもたちが町内会等の行事に積極的に参加している様子が見られる。 ・幼稚園・保育園との交流活動は素晴らしい。高齢者など幅広い年齢の方とふれあう機会を設けるとよい。		
その他	危機管理マニュアルが教職員に共通理解され、災害時や、来校者や不審者に対する危機管理の態勢が整えられている。	B	A	A
	児童・保護者・教職員の個人情報適切に管理されている。	A		
	教室や学校内外の環境整備を図り、清潔で安全な学ぶ環境づくりに努めている。	A		
	学校関係者による意見	・町内会活動などを通して、安全・安心なまちづくりに努めていきたい。		